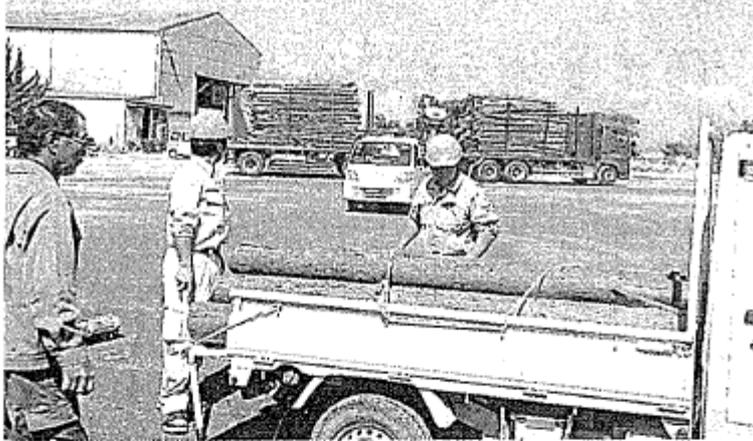


軽トラックで「糸島市木の駅・伊都山燦」に運び込まれた木材



「山仕事で生計」後押し

山中で眠っている森林資源を活用するため、糸島市が整備を進めていた貯木場「糸島市木の駅・伊都山燦」が1日、同市高来寺にオープンした。山仕事で生活が成り立つよう、森林を再生させるのが目的で、自治体が木材を買い取る貯木場を開設するのは、全国初の試みだという。

運営は、市が佐賀県伊万里市の木材販売業「伊万里木材市場」に委託。一般の建築用材のほか、搬出コストが見合わないため山に放置されたままの間伐材や、

軽トラ1台分＝晩酌代に

木材買い取り 糸島市が貯木場

値が付かない根元材や端材などの「C材」を受け入れる。建築材として活用されず、主にチップなどで使われるC材は1斗当たり2千円で買い入れるが、市内の地域森林計画対象地で伐採されたものか、市民が搬入した市内の枯れ松であれば、市内で使える商品券3千円分が1斗ごとに上乗せされる。伊万里木材は「山に放置されていたC材を、軽トラックで持ち込めば、晩酌程度のお金になる」とPRしている。

市内の人工林6千畝のうち、6割は放置林。過去3年で780畝が間伐されたものの、木材が搬出されたケースは、このうちの3・3％にとどまっている。

この日、軽トラック1台分のC材を搬入した同市林業研究クラブの吉村正春さん(58)は「これを機に、自分の山を維持管理する自伐林家と、新規就農者が山仕事でも副収入を得られる仕組みをつくりたい」と話していた。

自治体設置の貯木場

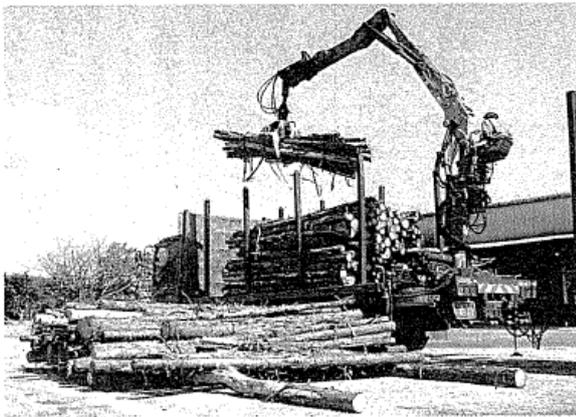
木の駅「伊都山燦」が開所

全国初

糸島市は、山から切り出した木材を一時保管する「貯木場」として、同市高来寺の工場跡地に1日、木の駅「伊都山燦(さんさん)」を開所した。森林の再生を目的に、自治体が木材を買い取る公設の貯木場を設置するのは、全国でも初めて。

放置される人工林

戦後に植栽された杉やヒノキなど、市内には約6千畝の人工林があるが、その6割が放置された状態という。



1日に開所した木の駅「伊都山燦」

間伐は、最近3年間に780畝で行われたが、間伐材が搬出されたのは、わずか26畝(3・3%)のみ。

木材価格の低迷などから、間伐しても木材

が引き出されず、切り捨てにされている。国は2011年度から、間伐材を搬出しなければ補助金を交付しないように制度を変えた。森林の荒廃が進めば、水源としての機能低下や土砂災害だけでなく、基幹産業である農業や漁業への影響も心配される。

林業活性で森を再生

市は本年度、「糸島型森林再生プロジェクト」をスタートさせ、関

連予算約2千500万円を当初予算案に計上。貯木場を開設し、出荷された木材は、建築材なら1立方尺当たり約8千円で買い取

る。端材なども木の種類や長さ、形を問わず、1斗当たり市場価格約2千円に、市が補助金として市商工会商品券3千円を上乗せする。

市農林土木課はプロジェクトを通じ、植林から成長した木を伐採する主伐までのサイクルを復活させ、林業の活性化を目指す。端材などは市場価格に上乗せして買い取ることで、所得向上による市内の林業担い手の育成▽間伐と木材搬出の推進▽地元で使える商品券による地域振興などを促し、森林の保全を図りたいとしている。

1日、木の駅スタート

木の駅「伊都山燦」は、8500平方尺の敷地を、市が民間業者から月26万円で借り

る。15年度以降は、およそ2倍の約1万6千平方尺に拡張する計画。運営は16年まで、年間500万円。伊万里木材市場(佐賀県伊万里市)に委託する。開所式で、松本健男市長は「伊都山燦に多くの木材が集積することで、森林の保全、再生につなげたい」と話していた。

(便物認可)

間伐材市が買い取り

福岡県糸島市は、伐採後に放置されている間伐材を買い取って販売する「糸島型森林再生プロジェクト」を10月から始動する。市が材木を買い取る貯木場を整備し、間伐材を相場価格に商品券を上乗せするなどして直接買い取ることによって流通を促し、森林の再生につなげるのが狙い。林野庁も「自治体としては特徴ある取り組みで、同様事例は聞いたことがない」と期待している。(香月大輝)

同市によると、市内の人工林約60000畝のうち、6割は手入れされずに放置されている。森林は、間伐

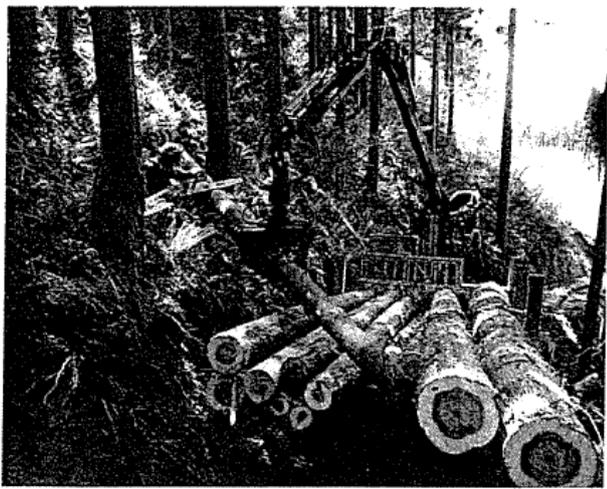
糸島 森林荒廃に歯止め

相場価格に商品券上乗せ ■ 販売も

して搬出したり下草を刈ったりするなど適切に手入れをしないと、木が建材に使えるよう成長しないばかりか、倒木が起き、土砂などの流出にもつながる。

森林の手入れが進まない背景の一つには、木材や間伐材の価格低迷がある。間伐をしても採算が合わないため、糸島市内で山林の伐採や木材の搬出に従事しているのは3人程度しかない。同市内でこの3年間に間伐が行われた780畝のうち、搬出されたのは26畝(3.3%)分だけと、森林は荒れる一方だ。

間伐材を搬出する様子。適正な搬出を促進し、森林の再生を目指す＝糸島市提供



戦後、建材用に植林された杉やヒノキが50年以上経たない。同市内でこの3年間に間伐が行われた780畝のうち、搬出されたのは26畝(3.3%)分だけと、森林は荒れる一方だ。

戦後、建材用に植林された杉やヒノキが50年以上経たない。同市内でこの3年間に間伐が行われた780畝のうち、搬出されたのは26畝(3.3%)分だけと、森林は荒れる一方だ。

戦後、建材用に植林された杉やヒノキが50年以上経たない。同市内でこの3年間に間伐が行われた780畝のうち、搬出されたのは26畝(3.3%)分だけと、森林は荒れる一方だ。

糸島市農林土木課は、プロジェクトについて「市が直接買い取りを進めることで、林業者を中心とした働く場の確保や森林機能の向上につながる、糸島の魅力である一次産業に好循環をもたらす」と見込んでいる。

同プロジェクトに関連し、市林業研究クラブなどでつくる「糸島 木の駅プロジェクト実行委員会」は、森や林業に関心のある人に気軽に山仕事を体験してもらおうと、10月12、26、27、11月17日の4回、「糸島林業塾2013秋」を開く。チェーンソーによる間伐、出荷・販売など林業の基本的な技術を学ぶことができる。参加費は1回1000円で定員は各回20人程度。問い合わせは同クラブ(080・3992・1898)。

福岡県糸島市が間伐材買取事業開始 自治体自ら貯木場を設置

限られた予算で地域を活発に

福岡県糸島市（松本嶺男市長）は、自治体としては全国で初めて、自ら土地を借り上げて貯木場を設置し、地域から出材される間伐材等の丸太を買い取る事業を開始した。

チップ用材（建築用材以外を指す）なら、搬入された際に木材の重量を計測し、トン当たり3000円分の地域商品券（糸島市内の地域森林計画対象森林内で伐採されたことが確認できる書類がある場合、同市補助事業）12000円（現金）がその場で支払われる。

「この取組は丸太が集荷できても需要がなければ行き詰まる。同市では貯木場の運営を伊万里木材市

場（佐賀県伊万里市、林雅文社長）に委託。年間30万立方尺の原木を取り扱う同社の流通網に組み込むことで、バイオマス発電用途など出口を確保した。

「売りたい人は誰でも搬入したい。1日に開所した糸島市貯木場・木の駅「伊都山燦（いとしんざん）」は、敷地面積8500平方尺。数年後には1万6000平方尺まで拡充する予定だ。土場入の口には重

量計測機が設置され、同日には軽トラ、トリーラー等で初荷が持ち



伊都山燦に運び込まれた間伐等の丸太（円内は松本嶺男糸島市長）

込まれた。糸島市民以外でも木材を売りたい人は誰でも搬入できる。

伊万里木材市場は糸島事業所を開設し、地元から1人を雇用した（当面は本社から人材も派遣）。建築用材は、選別、検収後の支払い。チップ用材を含めて相場で購入する。

糸島市でも間伐等の指導員1人を採用した。糸島市は森林面積約1万杉、うち人工林の杉・桧は6000杉あり

るが、森林整備が思うように進まず、基幹産業である農業、水産業等への悪影響も懸念されていた。福岡県の森林環境税を積極的に活用して森林整備に努めてきたが、地方自治体には十分な森林整備を進めるための予算が不足しているのも実情だ。

そこで糸島市九州大学連携研究助成金制度による提言を得て、高知県のNPOが実践する「木の駅」等の事例を検討。軽トラとチェーンソー等で自伐林業を行う場合には今回の買取価格でも十分に採算が成り立つこと、地域自治体が比較的小さな

予算（地域振興券等）を組むだけで自発的な森林整備が進むといった実績が出ていることから、今回のプロジェクトを開始した。糸島市は今後、各種広報で積極的にPRし、森林組合組合員に呼び掛け、間伐材等の持ち込みを増やしていく考えだ。